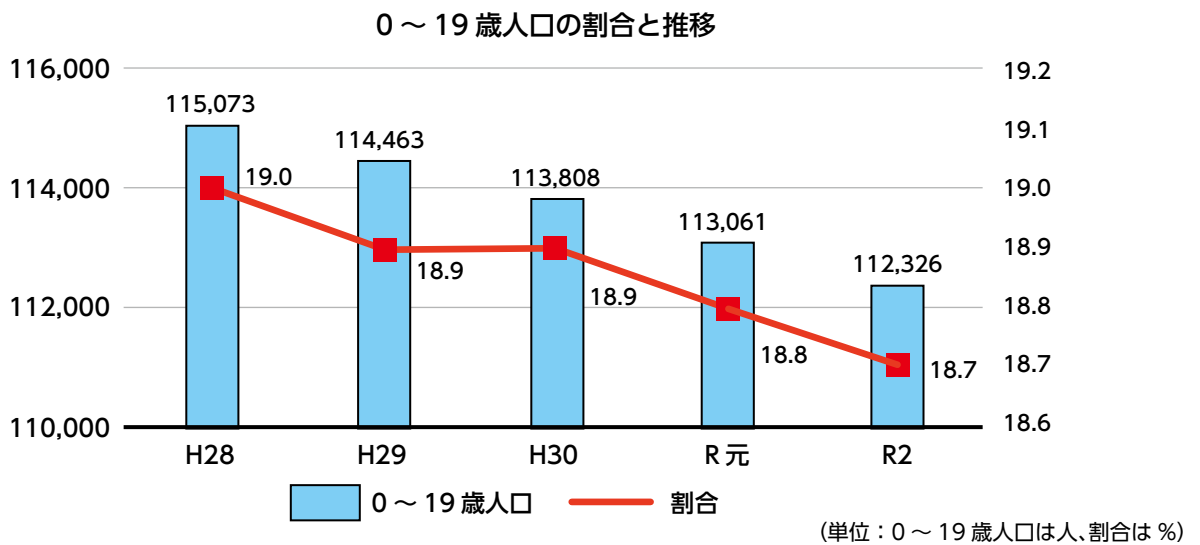


鹿児島市の子どもたちの現状

(1) 本市の子どもたちを取りまく現状

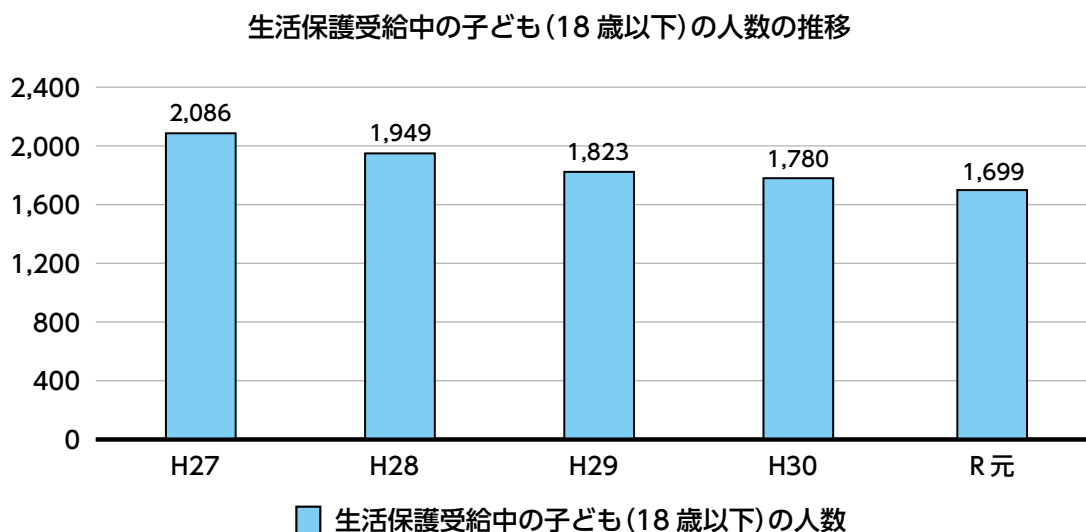
① 年々子どもの人口割合が減り、少子化が進行しています。

ア 0～19歳人口の割合と推移(住民基本台帳人口より)



② 人口減少が続く中、生活保護を受けている子どもが一定数存在します。

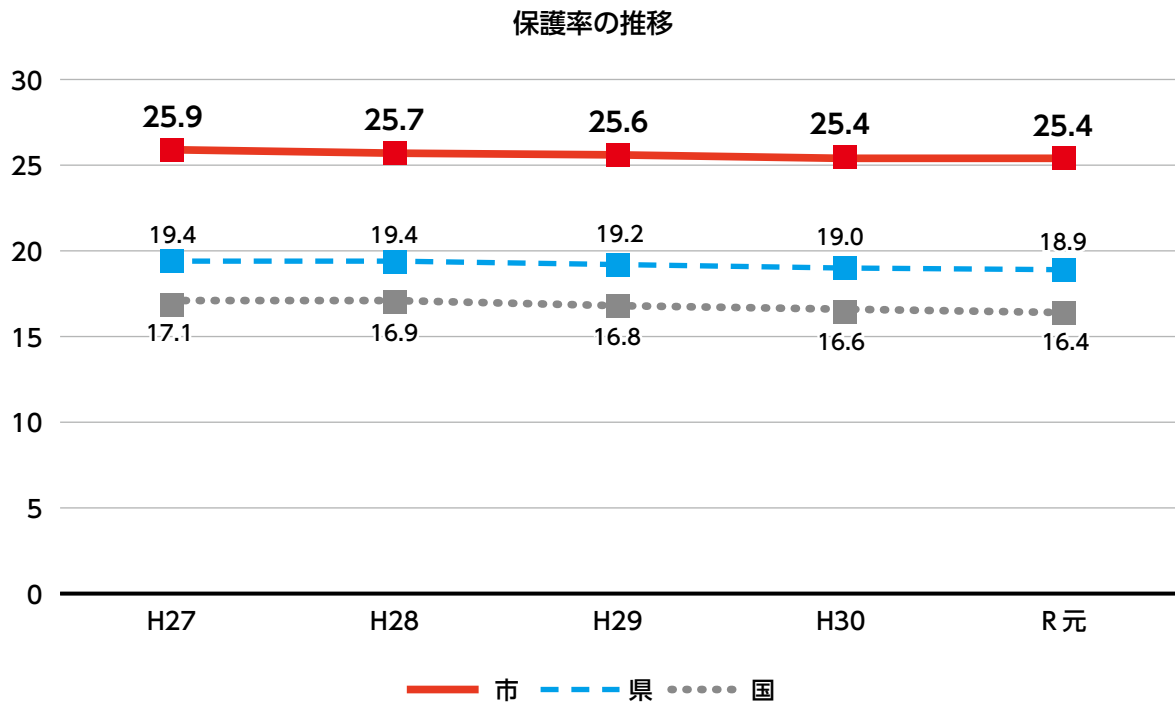
イ 生活保護受給中の子ども(18歳以下)の人数の推移



(単位：人)

③ 本市の保護率は国や県を上回っており、生活保護受給者が多い状況です。

ウ 保護率の推移

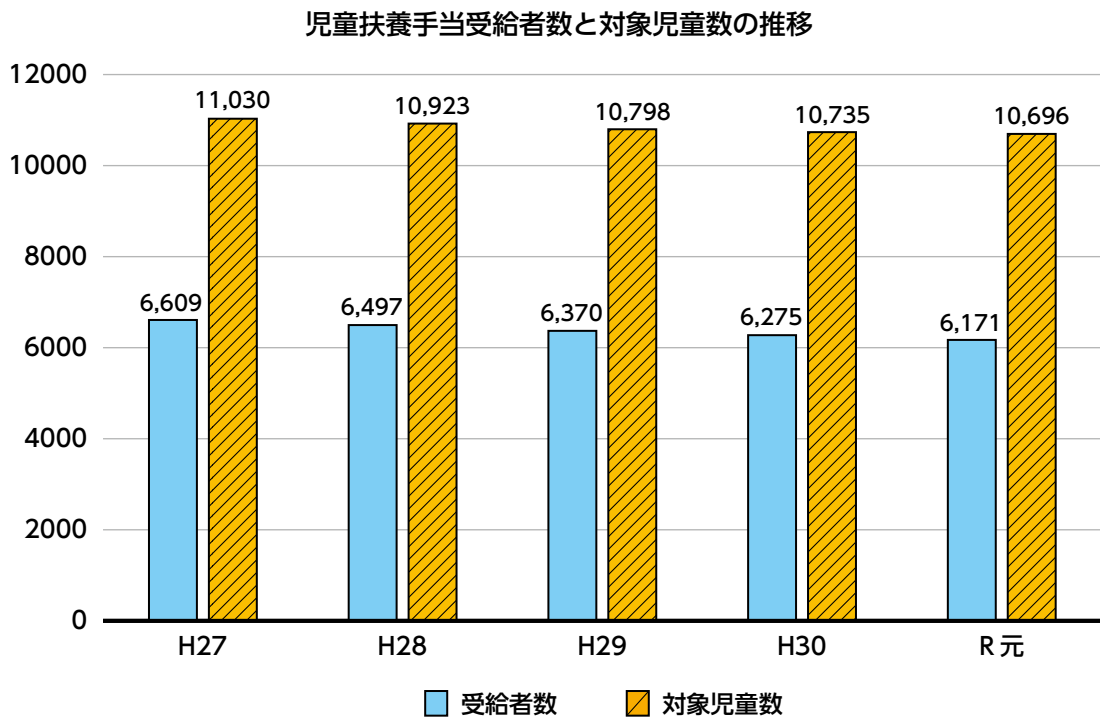


(単位 %)

※保護率：被保護人員 ÷ 推計人口 × 1000 保護率の単位%は千分率

④ 本市には多くのひとり親家庭の方々がいます。

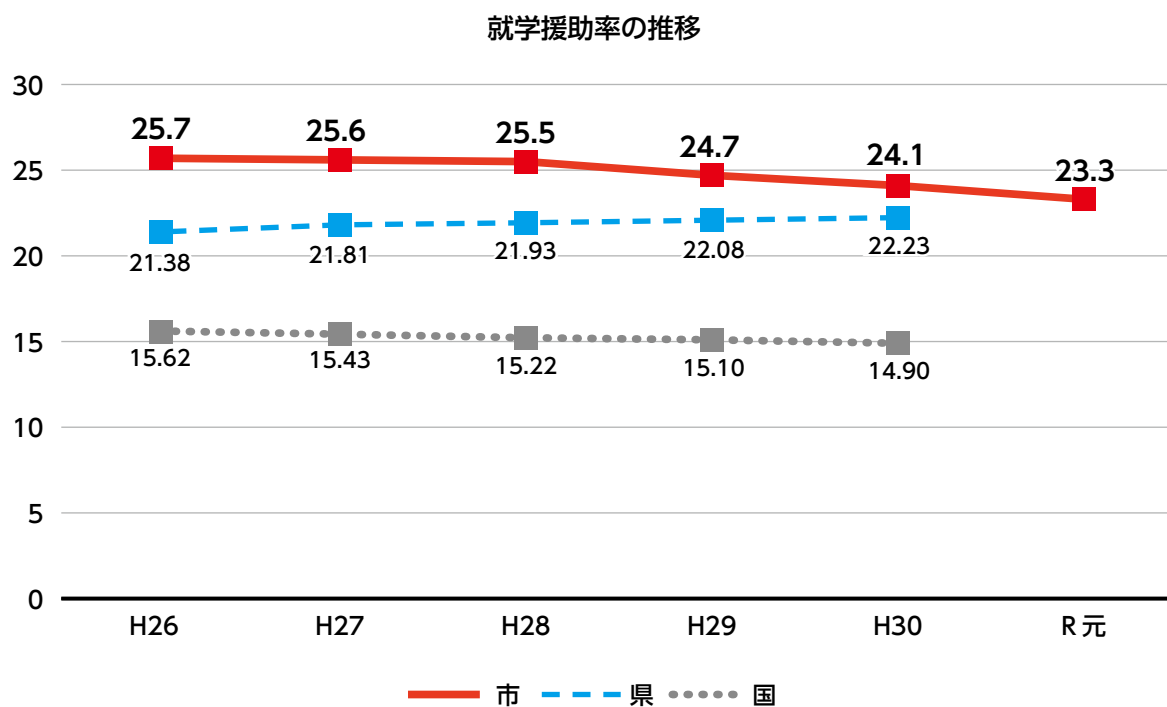
エ 児童扶養手当受給者数と対象児童数の推移



(単位：人)

⑤ 本市の就学援助率は国や県を上回っており、就学援助受給者が多い状況です。

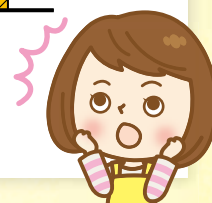
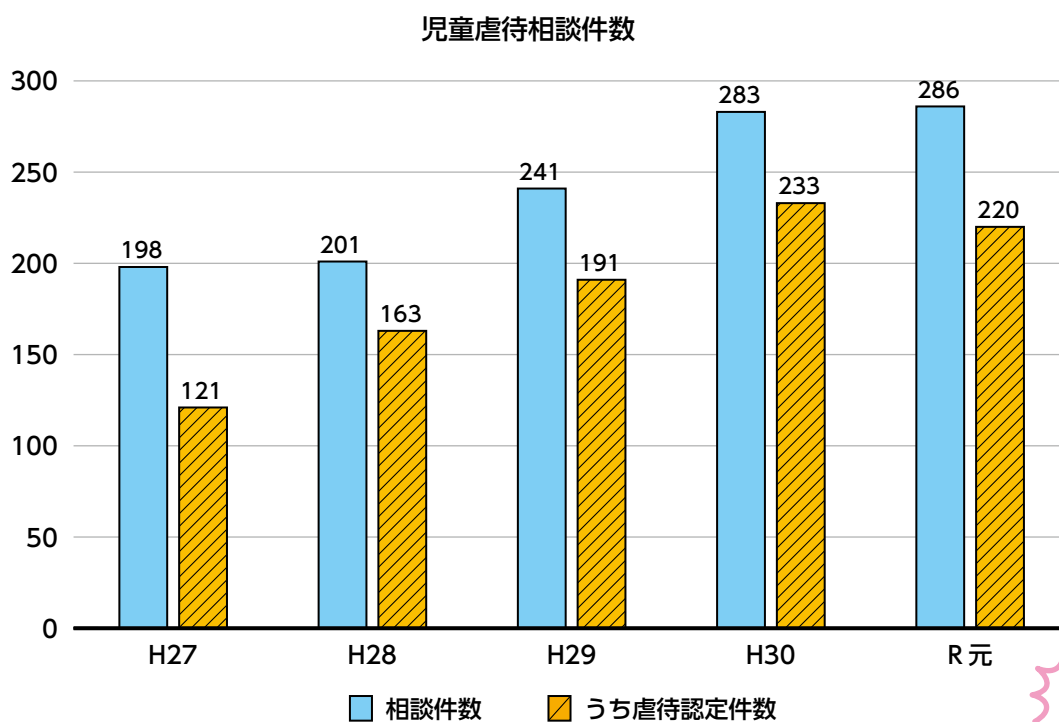
オ 就学援助率の推移



就学援助率：要保護及び準要保護児童生徒数を公立小中学校児童生徒数で除して算出

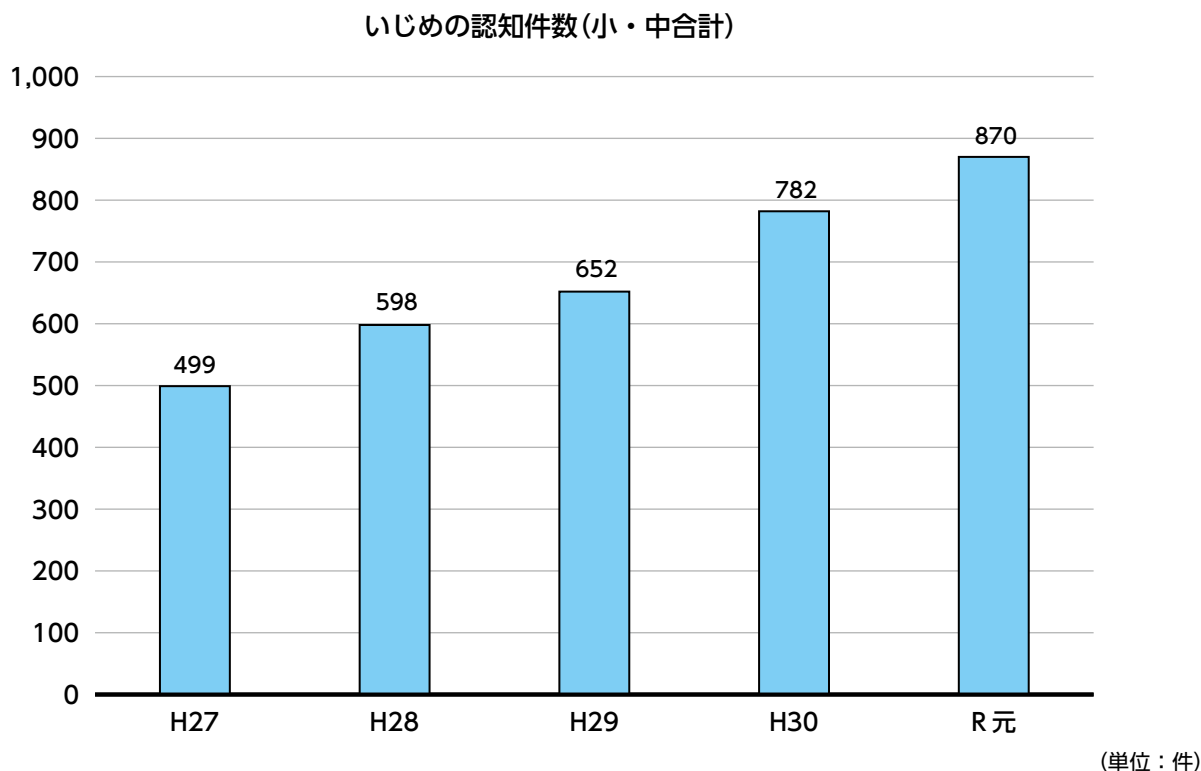
⑥ ここ数年は児童虐待相談件数が増えており、家庭の中で困っている子どもが増えています。

カ 児童虐待相談件数(市こども支援室受付分)



⑦ いじめの認知件数が増えています。

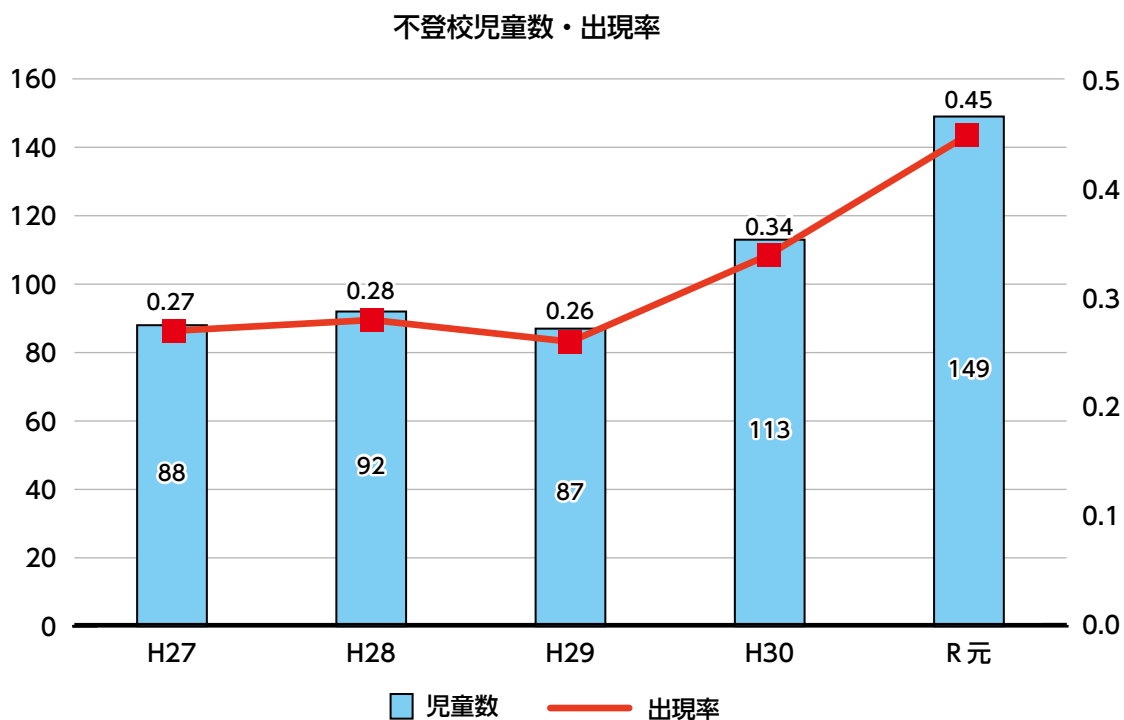
キ いじめの認知件数(小・中合計)



⑧ 学校に行くことができていない子どもが一定数います。

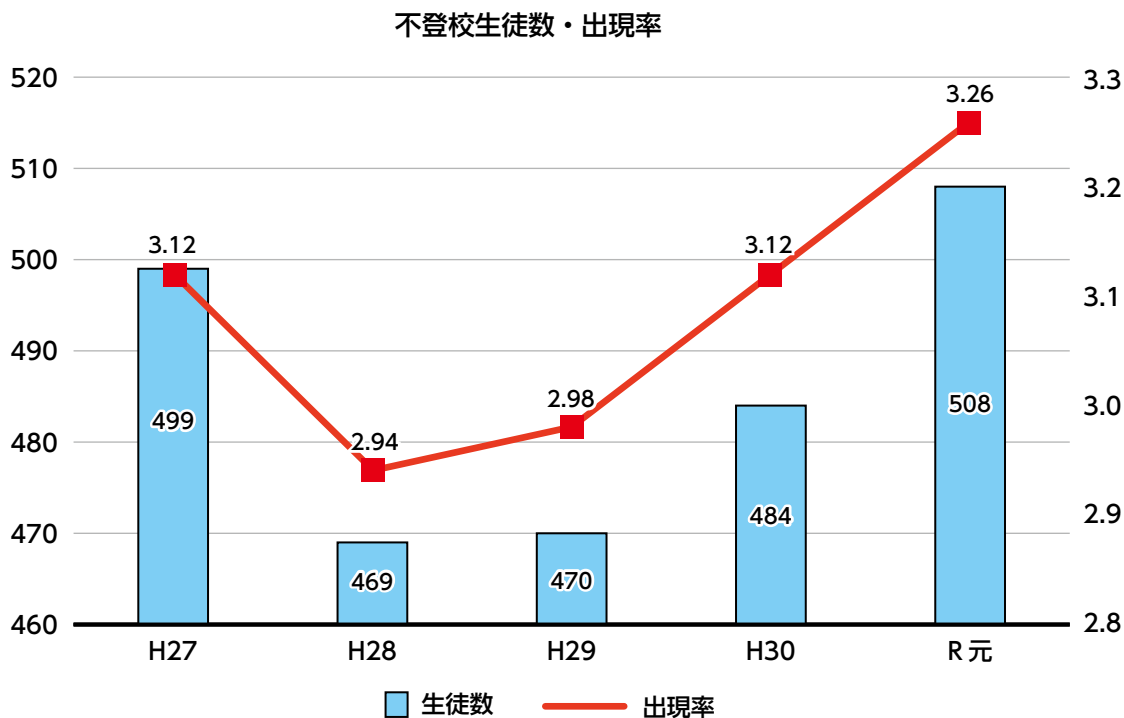
ク 不登校児童生徒数・出現率

(小学校)



出現率：在籍児童生徒数における不登校児童生徒数の割合 (単位：人 出現率は%)

(中学校)



(単位：人 出現率は%)

(2) 平成 29 年度鹿児島市子どもの生活に関するアンケート調査結果より(抜粋)

1 調査の目的

本市における子どもの貧困問題の可視化及び今後の施策に反映する基礎資料とするため、子ども及びその保護者を対象に、生活に関するアンケート調査を実施しました。

2 調査対象及び回収結果

調査対象：鹿児島市の市立学校の小学 5 年生・中学 2 年生の子ども及びその保護者

調査方法：対象者全員に対するアンケート調査を学校配布、学校回収により実施

調査時期：平成 29 年 7 月

実施状況

	小学 5 年生		中学 2 年生	
	子ども	保護者	子ども	保護者
配布数	5,600	5,600	5,297	5,297
有効回収数	4,827	4,855	4,362	4,448
有効回収率	86.2%	86.7%	82.3%	84.0%

3 集計の方法

所得類型別にクロス集計を行いました。

所得タイプの区分については、等価可処分所得(世帯の可処分所得を世帯人員の平方根で割って調整した所得)を算出して区分しました。本調査では、保護者への調査問3(1)で「前年(2016年)のおおよその手取り額(ボーナスを含む)」を調査しています。ただし、「200～250万円未満」や「400～500万円未満」といった幅のある数値の選択肢を提示して調査したことから、等価可処分所得の算出にあたっては、それぞれの選択肢の上限値と下限値の平均値を可処分所得として取り扱いました。また、平成28年国民生活基礎調査における等価可処分所得の中央値は245万円であることから、下記のとおり所得類型を3つに区分しています。

【所得類型における区分の条件】

- ・保護者への調査問2(1)①「世帯員数」及び問3(1)「世帯収入」を回答した者のみを区分

【所得類型別区分】

- ・A類世帯：等価可処分所得が中央値(245万円)の50%(122万円)未満の世帯
- ・B類世帯：等価可処分所得が中央値未満で、中央値の50%以上の世帯
- ・C類世帯：等価可処分所得が中央値以上の世帯

※この調査においては、A類世帯に該当する方々を相対的貧困世帯として位置づけています。

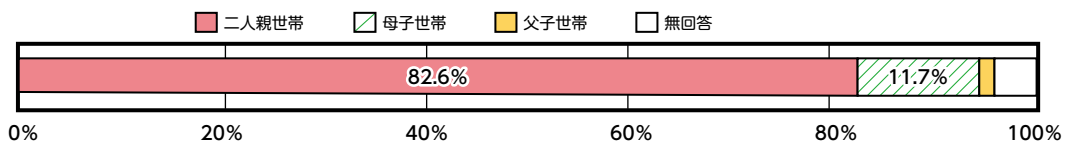
4 調査結果に基づく考察

(1) 回答者の状況について

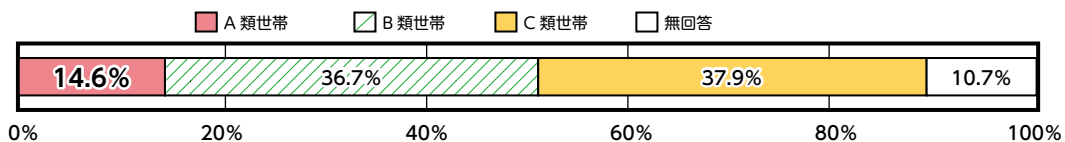
14.6%!!
7人に1人の
子どもが貧困!?



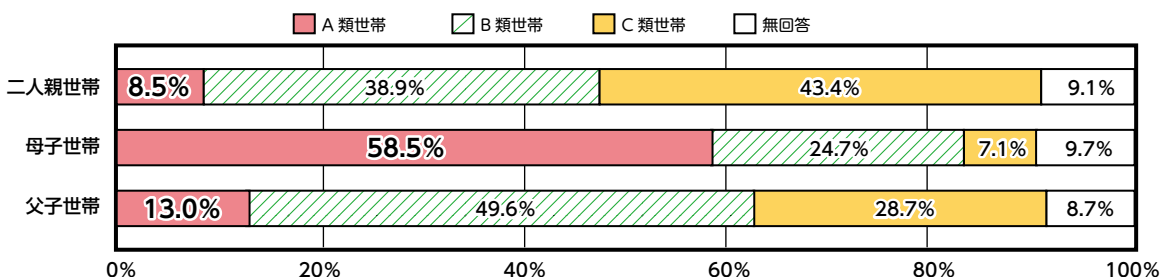
① 回答者の世帯類型別の構成



② 回答者の所得類型別の構成



③ 世帯構成ごとの所得類型別の構成

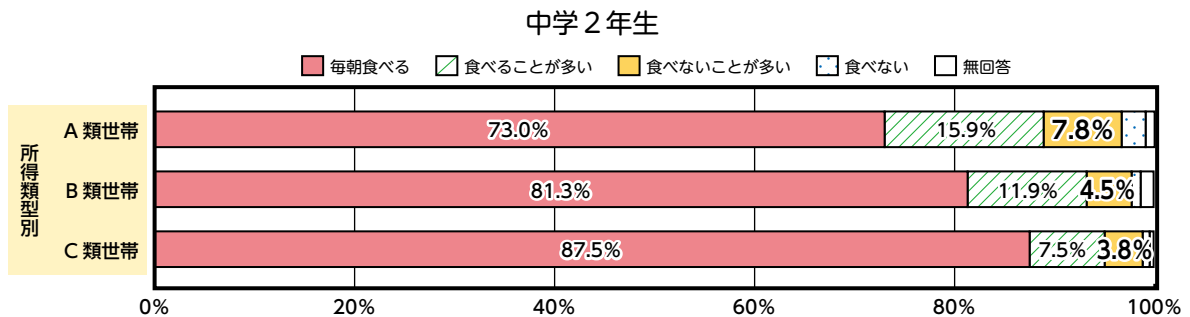
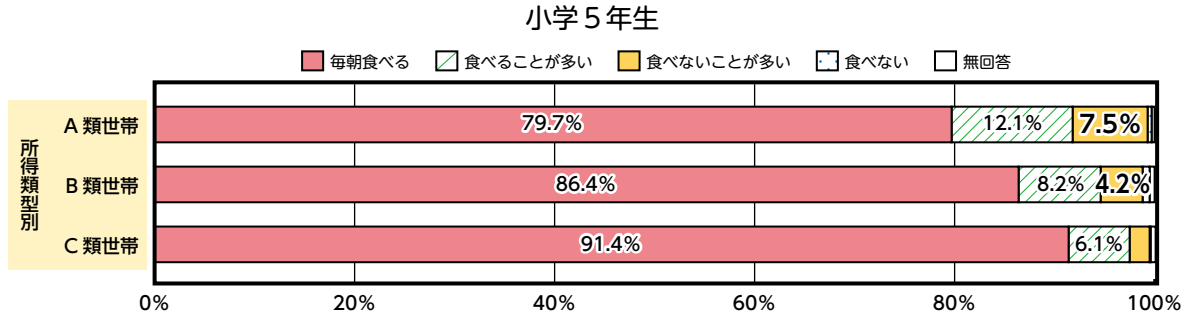


(2) 子どもたちの状況について(子どもへの調査より抜粋)

問3 朝食についておたずねします。

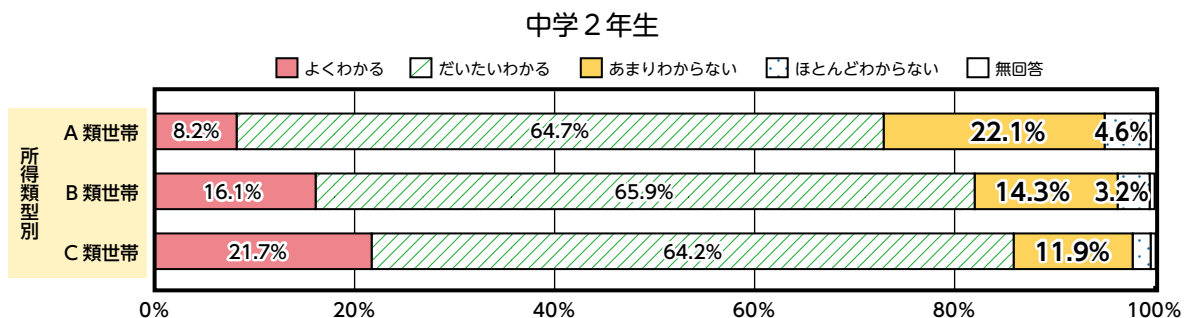
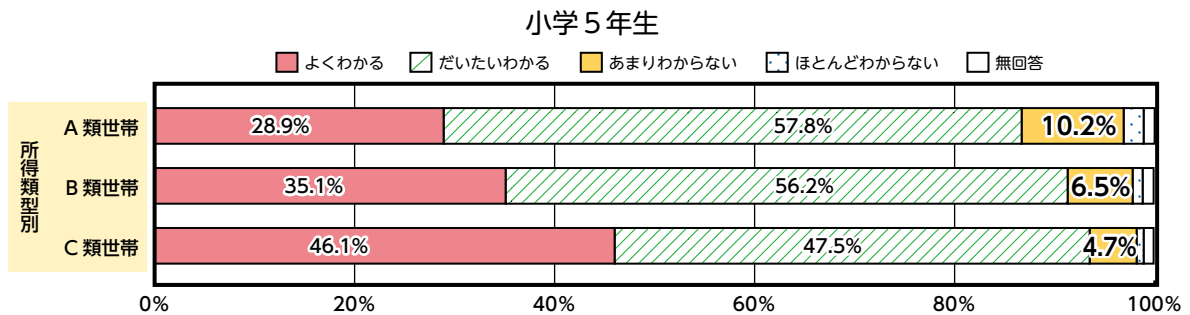
(1) あなたは週にどのくらい、朝食を食べていますか。(SA)

「食べないことが多い」+「食べない」との回答は、小学5年生・中学2年生ともA類世帯で高くなっています。



問11 学校の勉強について、あなたの気持ちに近いものはどれですか。(SA)

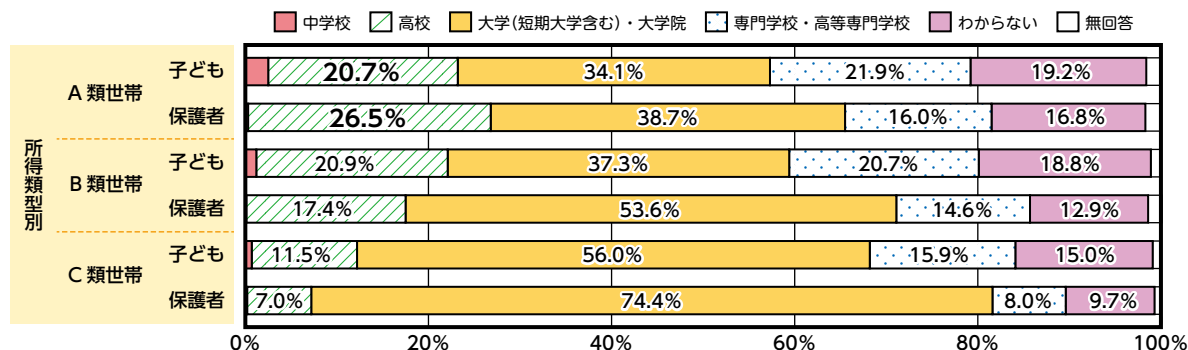
「あまりわからない」+「ほとんどわからない」との回答は、小学5年生・中学2年生ともA類世帯で高くなっています。



子どもの進学について

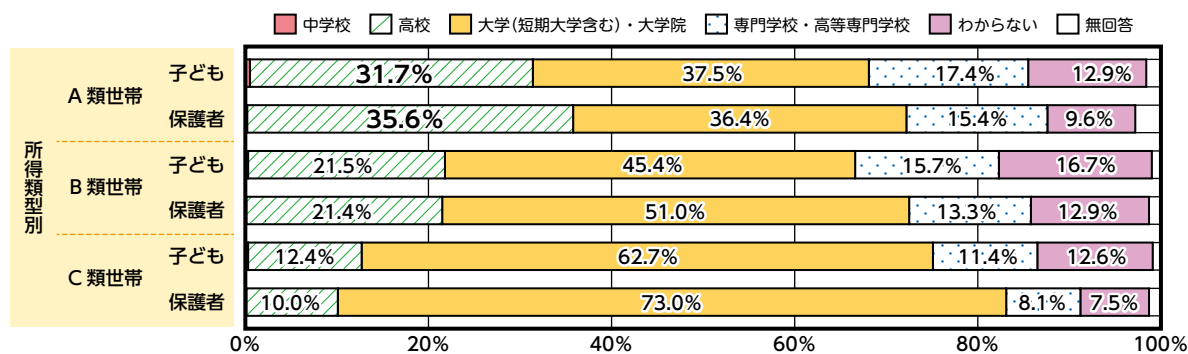
子ども自身が希望する進学先と保護者が望んでいる子どもの進学先を比較した場合、A類世帯では「高校」との回答が子どもより保護者で高くなっており、B類・C類世帯では、「大学(短期大学含む)・大学院」との回答が子どもより保護者で高くなっています。

子ども自身が希望する進学先と保護者が望んでいる子どもの進学先(小学5年生)



※保護者においては、「短期大学」と「大学・大学院」を合計し、子どもの回答項目に統一した

子ども自身が希望する進学先と保護者が望んでいる子どもの進学先(中学2年生)

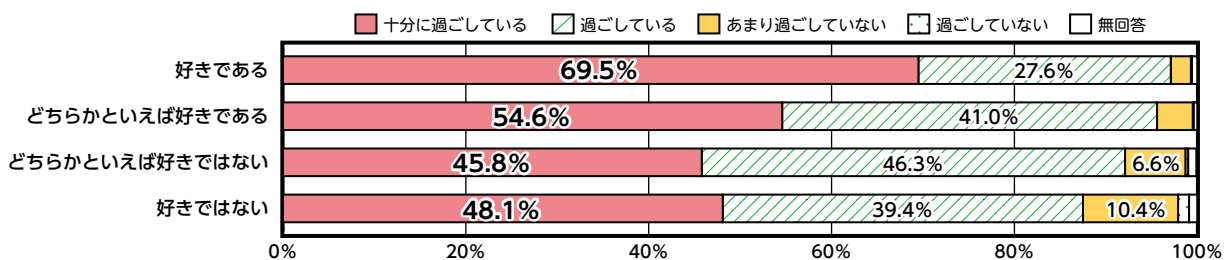


※保護者においては、「短期大学」と「大学・大学院」を合計し、子どもの回答項目に統一した

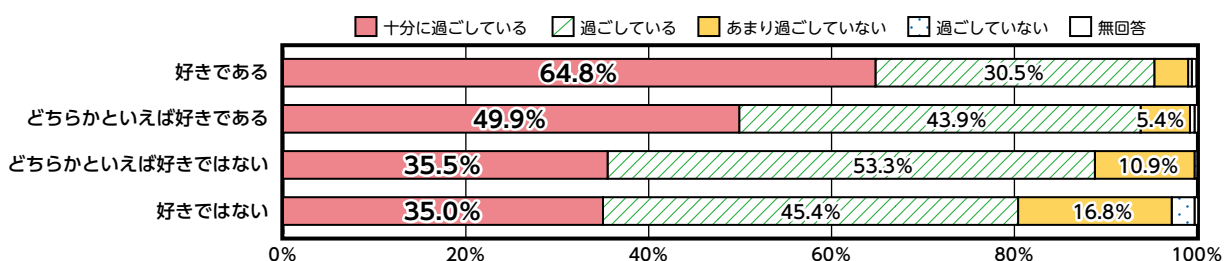
家族と過ごす時間 × 自己肯定感

自分のことを「好きである」と答えた子どもほど、家族と「十分に過ごしている」と答えた割合が高くなっています。

家族と過ごす時間 × 自己肯定感(小学5年生)



家族と過ごす時間 × 自己肯定感(中学2年生)



家庭の影響って大きい……。

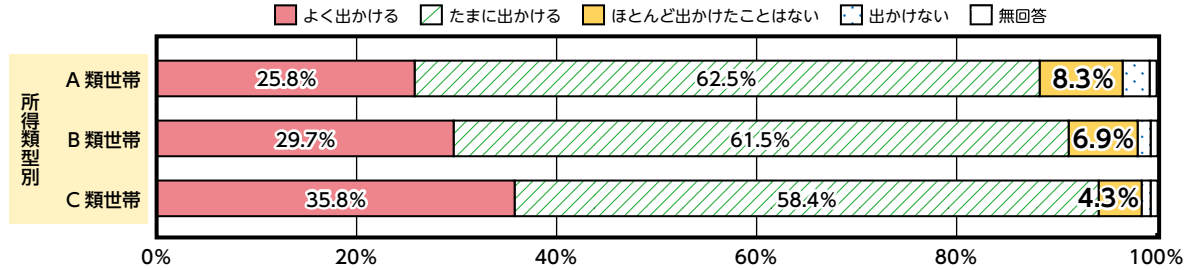


問8 あなたは、家族の人と一緒に次のことをしていますか。

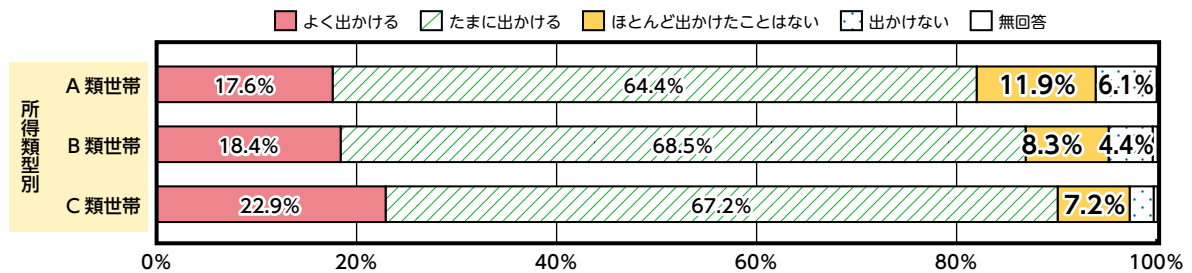
(1) 家族旅行や日帰りでのお出かけなど(SA)

「ほとんど出かけたことはない」+「出かけない」との回答はA類世帯で高くなっています。

小学5年生



中学2年生



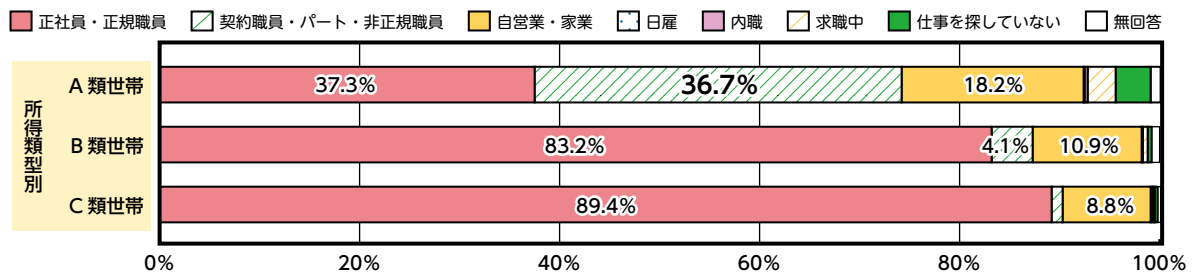
(3) 保護者の状況について(保護者への調査より抜粋)

問6 主な生計維持者の現在の就業状況についてお尋ねします。(SA)

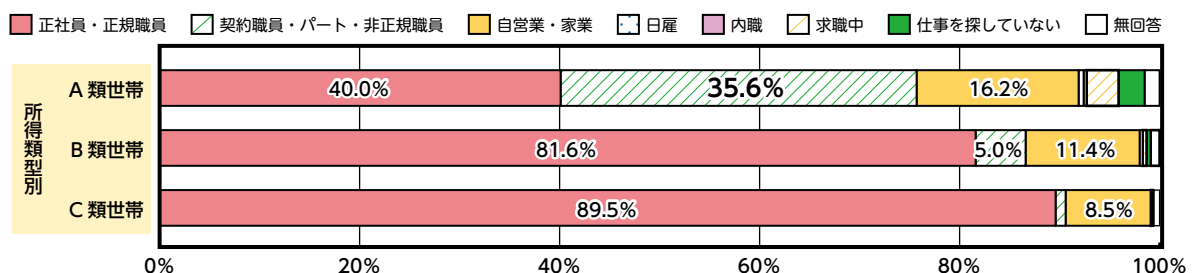
※現在、育児休業などで休業中の方は、復職するときの仕事を選んでください。

全体では「正社員・正規職員」が最も高く約8割となっていますが、A類世帯で「契約社員・パート・非正規職員」が高くなっています。

小学5年生保護者



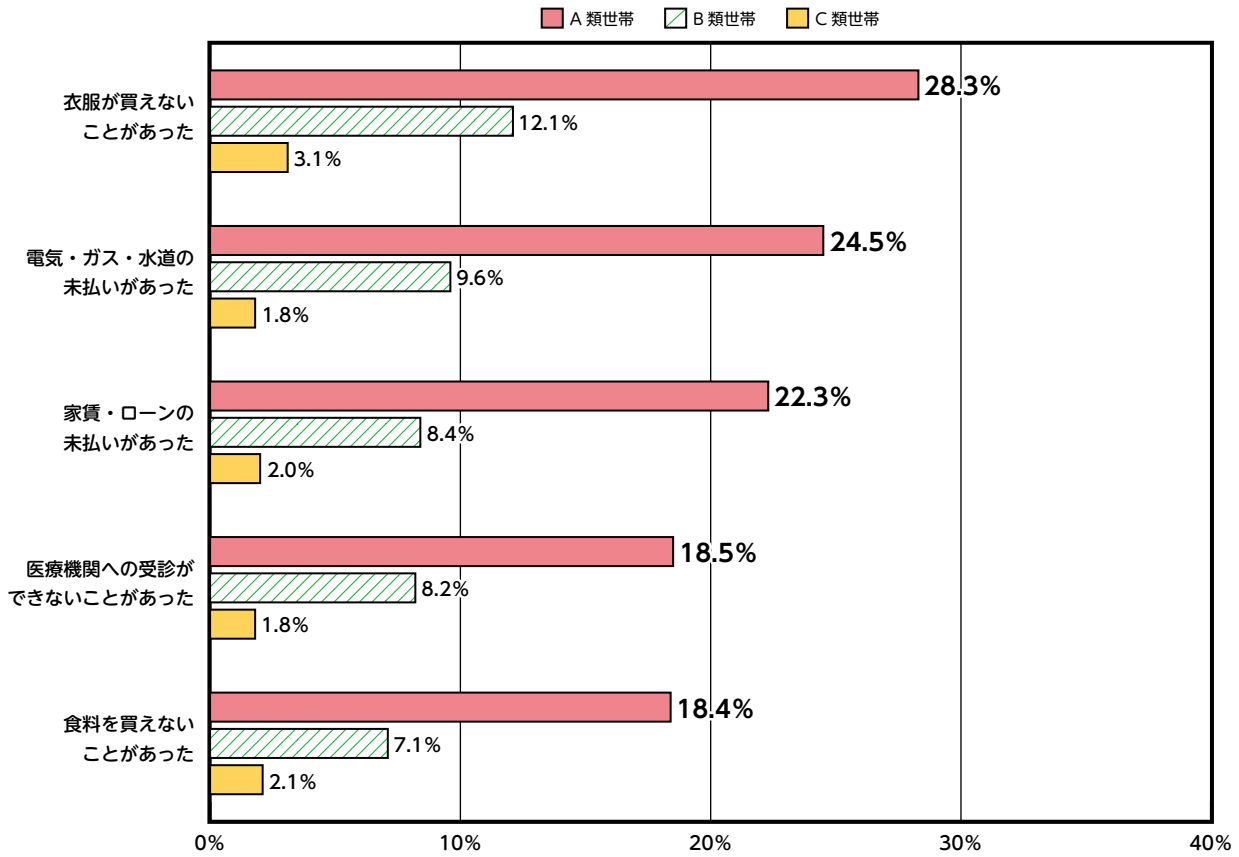
中学2年生保護者



家計支出について

過去半年間で家計支出が困難であったかを聞いたところ、A類世帯は全ての項目で突出した値となっており、家計支出が厳しい状況をうかがうことができます。

過去半年間で家計支出が困難であったもの



問 21 あなた(主な生計維持者)は、これまでに次のような経験をしたことがありますか。(MA)

小学5年生・中学2年生とも「いずれも経験したことがない」が最も高くなっていますが、A類世帯では「成人する前に両親が離婚した」「親から暴力を振るわれた」、「元配偶者や交際相手から暴力を振るわれた」との回答が高くなっています。

小学5年生保護者

中学2年生保護者

■ A類世帯 □ B類世帯 ■ C類世帯

■ A類世帯 □ B類世帯 ■ C類世帯

